

ふれあい

大代地区コミュニティ推進協議会

事務局；大代地区公民館 ☎ 364-8442

大代地区コミュニティ推進協議会

平成十三年度総会を終えて

去る四月二十六日大代地区公民館において、推進委員等三十数名出席のもと総会が開かれ、前年度実績等の報告のあと、本年度の活動方針等が承認されましたのでお知らせいたします。活動方針・事業の概要は次のとおりです。

◎ 推進目標

- ① 一心のふれあう社会をつくる運動
- ② 美しい郷土をつくる運動
- ③ 三資源エネルギーを大切にする運動

◎ 推進事業

- ① 広報誌「ふれあい」の毎月発行
- ② 貞山運河周辺等清掃 五月・十月
- ③ グラウンドゴルフ大会 十月
- ④ ボウリング大会 二月
- ⑤ 視察研修 七月十二日(木)
- ⑥ 新年を祝う会 一月十三日(日)

◎ 新役員構成

会長	跡辺 三夫
副会長	佐藤 甚六
広報部長	渡辺 忍子
体育部長	渡辺 正平
コミュニティ推進部長	熱海 五郎
環境美化部長	小野 菊郎
各部の副部長は部会において選出します。	会長兼任
監事	小野 精子
	佐藤 良一

御祝儀 お見舞いは

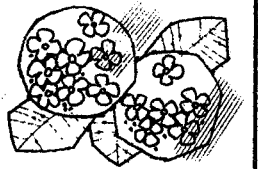
三千円を限度にお返し物はしないようにお互い気を配りましょう

コミュニティ「ふれあいの世界」

青葉若葉の季節がやっと到来したという感じのこの頃です。一年中で一番の季節でしょう。

雨がやむ雲が散る、
雲のあとにうねうねと
青葉若葉の山々が
遠く近く残る

(昔の唱歌)



私たちの小さい頃の歌は、おだやかで静かな暮らしの毎日だった事を思い出させます。田んぼの隅でメダカが泳ぎ、蛙が鳴き、楽しい世の中でした。さて今の世はどうでしょう。私たちが年寄りにとって仰天させられるような出来事の連続です。道を歩けば凄惨な音が鳴り響きますし、テレビを見れば見出しの半分は目を覆いたくなるような出来事でしょう。どうしてこんな事になってしまったのかなあと、おそろく皆が皆そう思っていると思います。昔より文化的になったのは確かです。住む家も立派になったのも確かです。しかし渡る世間は鬼ばかりと冗談に言っていました。日中でさえ一人歩きが怖くなりました。ついこの間までは玄

関に鍵をかけなくとも何ともなかったのですが、今そんなことをしたらとんでもないことです。

またお店の万引き等、茶飯事のような、強烈な犯罪が頻発していますから当然とも思われます。残念なことですが、要は悪に手を染めてはいけけないのだということを「しつけ」として小さい時から、頭にしみこませることが必要ではないか、それにはどうしたら良いかということだと思えます。このことはもう先延ばしにしてはいけけないぎりぎりの線までもうきていると思っています。

子供たちにゆとりのある学校生活をさせたいと休日をつぶすべくつくって来ました。受験科目もいくらかもありません。推薦入学もあります。でもそのゆとりの時間はいつたい何をすればよいのでしょうか。無論塾もあれば色々課外のこともあるとは思いますが、その時間テレビにかじりつく子、漫画本に夢中になる子、つまらない遊びに夢中になる子、良い方に使えば何事も無いのですが、私たち昔人に言わせれば、もともとと脳の働きの時間を費やしたらなあと思っているのですが。立派な先生方の考えたことだとは思いますが、何故かそれがこの世相に反映しているような気がしてならないのです。



こんなこともあるのです。道を歩いてたまたま道端に休んでいる何人かの少年に何をしているのだろうとチラッと見たら、突然「何で見るんだ○○ババァ！」と怒鳴られたと、ある婦人が語っていましたが、今はそんな世の中なのです。この子は、俺が何もしないのにジロリと見るとは何ごとか、ということでしょう。これがこの子の常識なのです。誰が教えたのでしょうか。思うにこの子は、そういう人たちとの対話を主としてきたのだと思えます。

一方的な話だけを聞いてみると片寄りがちですから、本当はもっと視野を広く取り、右も左も良く見て、色々人の話を聞き判断すればこういう乱暴な言葉が出なくなるのではないのでしょうか。家庭で、隣同士で、学校で、町内で、進んで対話し合い、溶け込むことによつて、良い常識が育ち、優しい人間になると思えます。皆で対話し合う場を数多く持ち、よい判断力を充分養うことによつて、とげとげしい言葉ではなく、優しい言葉を誰にでも語れるような人間に成長するのではないのでしょうか。

どうぞ皆で傍らにいる人たちと充分話し合える場をたくさん作りましょう。今の世は決して良い世ではありません。しかし良い子、良い大人はいっぱいいます。皆で努力し合えば必ず良い地域、良い「ふるさと」になると思えます。か。



会長 跡辺 三夫

カミソリとナイフの切れ味

おなじ刃物でもカミソリ（このばあい軽便カミソリということにしましうか）とナイフとでは、使う用途がまったくちがいます。カミソリの切れ味はずばらしいが、やはりヒゲそり以外にはどうにも役に立たない。ナイフはカミソリほどの切れ味はないが、力を加えれば木も削れるし穴もあけられます。

よく頭のきれる者のことを「あいつはカミソリのように」と言われ、どこでも一目おかれませんが、切れすぎてきずつけることがあります。このカミソリは使い手がうまくないと利益よりも弊害のほうが多いときもあります。一方ナイフは切れ味のいいのや、大して切れないがすこし研げば良くなるというのがあります。また使うほうが用途に応じて適材適所に選んでくれるのです。カミソリは使い道がせまく、切れ味にぶると「そのへんにおいとくと危ないから早く片づけたほうがいいよ」とお払い箱になる可能性があります。

諸君はカミソリ型かナイフ型かどちらかに属するわけですが、カミソリ型は数字的には少ないようだし、また本来そうざらにいるものでもありません。カミソリの切れ味を見てみると「ああ、あれくらい切れたらな」と思うでしょうが、それはしよせん思うだけ。マネを試してみたら、マネです。ナイフのほうは、さつきいったとおり、多少切っ先がぶくても寿命が長い。いたずらにカミソリの切れ味に眩惑されずに、のんびりとナイフの機能の中で動いていくのもいいものです。



大代東区 本郷 新治

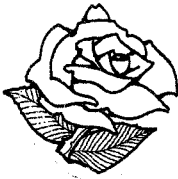
総会のお知らせ

日時 平成十三年六月二十日（水）
午後七時より

場所 大代地区公民館

議題 平成十二年度事業・決算報告他
講演 多賀城消防署署長による講話
※多数の方の出席をお待ちしております。

大代地区婦人防火クラブ
会長 後藤 重子



辞任挨拶

私ごとで申し訳ありませんが、今年齢と健康の都合により七年間努めた区長職を後継者、遠藤豊次郎氏にお引受いただき退任いたしました。振り返ってみますと、大代東区（東町内会）は仙台新港開発のための移転者や第二の故郷を求められた方々などで急速な住宅地が構成され、現在三百四十戸を数え恵まれた環境で明るい平和な生活を営んでおります。

大代東区がここまで進歩発展して来たこの成果は、区の役員を中心に一年交替の班長さんをはじめ全員一致の努力の賜であります。私の人生の一ページではあります。生涯最高のよろこびとして心にきざんでまいります。これまで御指導ご交際いただきましたことに心から感謝と御礼を申し上げます。

前大代東区長 永沢 三郎

こんにちわ、恵愛ホームです！

風薫る初夏の候、地域の皆様にはおかわりありませんでしょうか。

ところで看護する際、腰に負担をかけてしまい腰痛を引き起こすことがあります。自宅で介護なさっている方や腰痛にお悩みの方に「腰痛予防」についてお知らせしたいと思います。

- ① 膝を曲げ、体を近づける。
- ② 中腰姿勢を避ける。
- ③ 動作のすべてを介助するのではなく、出来ない部分だけを介助する。

等に注意してみてください。簡単にできる腰痛体操をいくつか紹介します。



両足かかえ



腹筋を鍛える



片足かかえ

普段から毎日続けることが大切です。私たちは、少しでも地域の皆様のお役に立てればと思っております。介護や福祉のことでお困りの方はお気軽にご相談下さい。

恵愛ホーム

千九八五〇八三二
多賀城市大代五丁目一―二
☎ 三六六―七一七 まで

俳句

- ☆ 花の雨 一期一会を 散らしけり
- ☆ 花冷えの 訃報は遠く 雨となる
- ☆ 孫曾孫 伝承飾る 鑑武者

大代西区 松浦 富男

貞山運河周辺清掃を終えて

去る五月十三日（日）午前六時から貞山運河周辺清掃を実施いたしました。当日は、六十名の方々が参加され、空缶、空ビン等を袋いっぱい集めていただき、さらに区分け作業まで行っていただきました。皆さん本当にありがとうございました。

地域の環境は地域の人々で守ることを基本におくことにより、これが市全体へと広がり、ひいては地球の環境を守ることに繋がっていくものと思えます。

次回は十月に予定しておりますので、多くの皆さんの参加ご協力をお願いします。環境美化部長

大人たちのための重心物語

月夜のメルヘン（2）

若生二徳（大代西）

めぐみは九歳になったばかり、つねに明るくいいきとすこしていたのに、まるで生きることに関心を失ってしまったかのようです。父は会社を休んで、娘の看護にあたり、父は会社を休んで、娘の看護にあたり、息をついては、身のおきどころに困惑しています。

四日目、めぐみの夕食は相変わらずまごとのようでしたが、しかし急性肺炎と診断されたその症状も、どうやら峠をこえたようです。その夜は回復期によくあるつよい眠りにさそわれ、これまでになく深い眠りへとおちていきました。枕許にあつて、娘のテンポ正しい寝息を耳に、父はようやく胸をなでおろし、カッ普拉イメンでも台所へ向かったのですが、食卓で頬杖をつくとそのまま物思いに耽るのでした。めぐみは、父が部屋を出るときに発したドアのきしみ、その現実の音にびっくりともしなかつたのに、それよりもつとかな音、何かがガラス窓に触れるものやわらかな音に、ハッと目を覚ましたのです。

「誰かしら？こんな夜ふけに。お母さんのあの私の耳に口をよせてのささやき、ないしよ話に似ているわ。」

めぐみは身をおこしてカーテンを引きました。

（続く）